



見沼小だより

平成29年度第5号

平成29年8月29日発行

TEL 048-663-7342

FAX 048-663-9887

学校教育目標 「仲良くする子」「元気な子」「考える子」



話す力 気持ちが伝わる言葉

校長 大澤 淳

長い夏休みも明け、いよいよ2学期のスタートです。今年の夏は、日照不足だったり、局地的な大雨があったり、また気温の低い日など、天候不順な日も多くありましたが、皆さまにおかれましては、充実した夏休みをお過ごしいただいたことと思います。子どもたちもみな元気に、始業式を迎えることができました。

さて、甲子園では、埼玉県代表、花咲徳栄高校が大活躍し、優勝するという素晴らしい結果を残し、一躍全国の脚光を浴びることとなりました。これまでの努力が実を結び、県勢初の悲願達成でした。本当におめでとうございます。試合前日の報道では、「全国制覇」、「日本一」、「優勝」と、選手たちは目標を口にしていました。そしてしっかりとその目標を達成、実行してくれました。本当に見事です。

スポーツの世界だけではなく、ずいぶん前から、「不言実行」ではなく、「有言実行」へ変化してきているのを感じます。「メダルを取ります」や「優勝します」が自身の目標として表現されることが普通になりました。これは、国際社会で活躍する上では、しっかりと言葉に表して表現すること、そして相手にはっきりと伝えていくというコミュニケーションの方法が必要だからであり、今ではかなり定着しているように感じます。また、そのコミュニケーション能力は、これからの時代を担う子どもたちにとって非常に重要かつ必要な力として、学校教育の中でも以前から実践されてきました。

一方で、言葉少なに、自分の決意を見せることや思いを伝えることを美德とし、「行間を読む」ように、多くを語らずとも相手の意を察する文化が、この国には昔からありました。古い人間の私は、間違いなくこの文化に影響されていると思っています。

少ない言葉で思いを伝えるには、より精練された、力のある言葉を選び表現する必要があります。一方、多くを語ることで伝えるにはたくさんの言葉を使用する必要があります。いずれの場合も、豊富な語彙と知識が必要なのは間違いありません。いちばん心配なのは、表面的で、心のこもらない会話です。少ない言葉では物足りない、かといって表面的な言葉だけ並べても思いは伝わらない、というコミュニケーションが一番困ります。しっかりと語彙力を付け、心のこもった伝達力のある言葉を身に付けるよう、学校でも指導していかなければと考えています。そして、言葉の持つ意味と使い方をしっかり理解し、心のこもった言葉で自分の考えを正しく伝えられる子どもたちになってほしいと思います。また、その上で、「有言実行」を格好良く感じられるように、また、昔からの「不言実行」も美しいと思えるように、どちらの感覚も大切に育ててほしいと願っています。

今、学校では、グローバルスタディとして、英語によるコミュニケーション能力の育成、国際化に向けた言語力を身に付ける授業も行っています。近未来のオリンピック東京大会や、将来、子どもたちが国際社会へ巣立って行く土台づくりを目標として取り組んでいます。